



## 「宇宙人はいるの？ アルマ天文台水野先生をお迎えして」

サンホセ日本人学校 校長 半山章人

新年、あけましておめでとうございます。昨年はサンホセ日本人学校の創立50周年記念式典において様々な方面からの多大なご協力をいただき、誠にありがとうございました。今年は、日本とコスタリカの外交関係樹立90周年を迎えます。海外から日本という国を見つめ直すとともに、現地理解を進めコスタリカで生活させていただいているという感謝の気持ちで、生活していきたいですね。さて、今もなおロシア・ウクライナ、イスラエル・パレスチナ関係など、世界を見渡すとたくさんの争いがあります。しかし、よくないことだけではなく、国どうしが協力していることもあります。国立天文台チリ観測所(アルマ望遠鏡)の水野先生をお招きして11月29日に「ふれあい天文学」がありました。先生の話によりますと、標高5000mのアンデス山脈にたくさんの国が協力して、66台の電波望遠鏡から、太陽系の起源、生命の起源、銀河の起源を研究しているそうです。児童生徒の感想の中に「水野先生が言ったように『仲間が常に同じ方向を向いていないと何も進まない』ことがわかりました。」とあるように、ものごとを追求していくためには、たくさんの人が同じ方向を向き、手を携えることが必要です。水野先生の講義の内容とともに、それを受けとめる子どもたちの感性のすばらしさに感心しました。水野先生はこのアルマ天文台の副所長を務めるとともに、中南米地域の日本人学校で天文学の講義も行っています。ちなみに、コスタリカ大学にあるプラネタリウムは日本が建設し、今年25周年を迎えます。

子どもたちが目を輝かしながら水野先生の話に耳を傾ける姿や一生懸命質問する姿から、今年は世界中が平和な1年になってほしいと願わずにいられませんでした。

## 「お弁当作り、ありがとうございます」

「今日は僕の好きなカレーだ。」お弁当の時間が来ると、うれしそうに自分のお弁当箱をもって、電子レンジに温めに行きます。サンホセ日本人学校では年間200日の授業日がありますが、そのほとんどが弁当持参です。日本国内の義務教育では給食ですが、ここではご家庭の方や自分が作った弁当を食べます。家庭に帰ると「今日もお弁当を作ってくれてありがとう。今日の△△とってもおいしかったよ。私の嫌いな〇〇も頑張って食べたよ。」など、家庭での会話が聞こえてきそうです。コスタリカでは、日本の食材は高価なため、現地の食材を工夫して料理し、子どもの健康を考え、おいしく食べてもらおうとご家庭の苦勞が感じられます。

2学期に、小学部1,2年生が作ったゼリーをいただきました。児童においしかったことを伝えると、「僕たちの作ったゼリーを食べてくれてありがとうございました。」このような言葉が返ってきました。その理由を聞くと「作ったものをおいしく食べてくれるとうれしいから。」とのこと。きっと家庭でも、このようなやりとりがあるのでしょう。お弁当作りは大変ですが、子どもたちは体の成長とともにお弁当のありがたみを感じ心も育っています。3学期は44日間、どうぞよろしくお願ひします。



【水野先生のお話を真剣に聞く低学年】



【水野先生に質問する子どもたち】



【全校生で食べる楽しいお弁当の時間】